

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「テンプレトン世界債券ファンド」は2016年12月20日に決算（限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコースは第12期、毎月分配型・為替ヘッジなしコースは第71期）を行いました。当ファンドは主として世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等に実質的な投資を行い、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース

第12期末（2016年12月20日）	
基準価額	11,053円
純資産総額	5,999百万円
第12期 （2016年6月21日～2016年12月20日）	
騰落率	10.2%
分配金合計	10円

テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース

第12期末（2016年12月20日）	
基準価額	15,632円
純資産総額	7,215百万円
第12期 （2016年6月21日～2016年12月20日）	
騰落率	23.3%
分配金合計	10円

テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース

第71期末（2016年12月20日）	
基準価額	14,172円
純資産総額	604百万円
第12作成期：第66期～第71期 （2016年6月21日～2016年12月20日）	
騰落率	23.4%
分配金合計	120円

(注) 騰落率は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

テンプレトン世界債券ファンド

限定為替ヘッジコース

為替ヘッジなしコース

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

(愛称：地球号)

追加型投信／内外／債券

交付運用報告書

限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコース

第12期（決算日 2016年12月20日）

作成対象期間：2016年6月21日～2016年12月20日

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

第12作成期

第66期（決算日 2016年 7月20日）

第67期（決算日 2016年 8月22日）

第68期（決算日 2016年 9月20日）

第69期（決算日 2016年10月20日）

第70期（決算日 2016年11月21日）

第71期（決算日 2016年12月20日）

作成対象期間：2016年6月21日～2016年12月20日



FRANKLIN TEMPLETON
INVESTMENTS

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社

東京都港区六本木1丁目9番10号

<お問い合わせ先>

お客様ダイヤル

電話番号：03-6230-5699

受付時間：9:00～17:00

(土・日・祝日および12月31日・1月2日・1月3日を除きます。)

ホームページ：<http://www.franklintempleton.co.jp/>

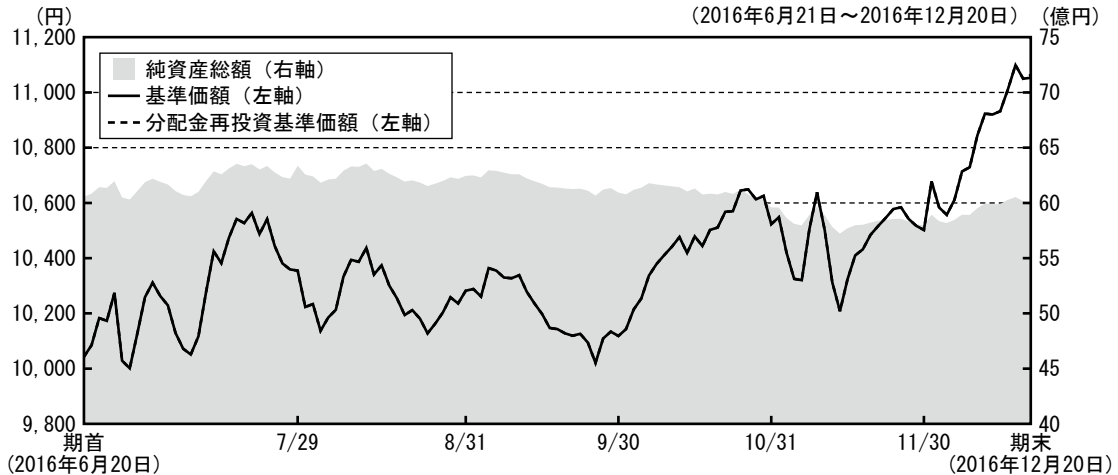
お客様の口座内容などに関するお問い合わせは、お申込みされた販売会社までお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。上記<お問い合わせ先>ホームページの「ファンド一覧」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、当ファンドの詳細ページにおいて「資料・レポート」の中から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付を請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

テンプレートン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース

運用経過の説明

1 基準価額等の推移



第12期首：10,043円

第12期末：11,053円 (既払分配金10円)

騰落率：10.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

2 基準価額の主な変動理由

基準価額の値上がりは、主要投資対象である「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY-H1」(以下、JPY限定為替ヘッジ・クラスといいます。)が値上がりしたことによるものです。この背景としては、主に以下の要因が挙げられます。

上昇要因：

- ・実質的に対米ドルで売り建てしている通貨 (円、ユーロなど) が米ドルに対し下落したこと
- ・新興国通貨の一部 (主にブラジルレアル) が米ドルに対し上昇したこと
- ・世界各国の国債、政府機関債等からの利息収入

下落要因：

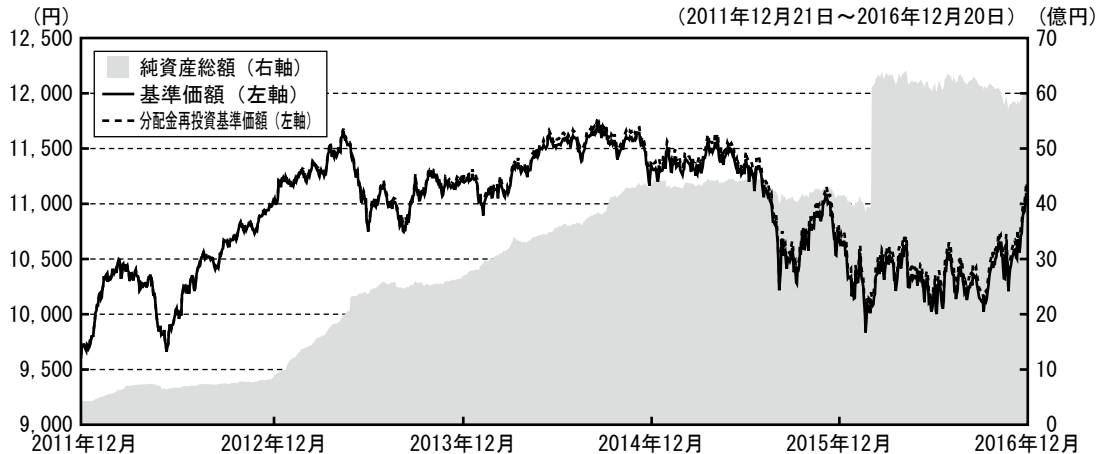
- ・新興国通貨の一部 (メキシコペソ、マレーシアリングなど) が米ドルに対し下落したこと
- ・新興国債券の一部が値下がりしたこと

3 1万口当たり費用明細

項目	当期 2016年6月21日～2016年12月20日		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 55	% 0.528	(a) 信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率、期中の平均基準価額は10,339円です。 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
（投信会社）	(11)	(0.108)	
（販売会社）	(42)	(0.406)	
（受託会社）	(1)	(0.014)	
(b) その他費用	0	0.004	(b) その他費用＝ $\frac{\text{〔期中のその他費用〕}}{\text{〔期中の平均受益権口数〕}}$ その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ その他は、金銭信託預入に係る手数料等
（監査費用）	(0)	(0.004)	
（その他）	(0)	(0.000)	
合計	55	0.532	

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

4 最近5年間の基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2011年12月20日 決算日	2012年12月20日 決算日	2013年12月20日 決算日	2014年12月22日 決算日	2015年12月21日 決算日	2016年12月20日 決算日
基準価額 (円)	9,601	11,030	11,197	11,338	10,662	11,053
期間分配金合計(税込み) (円)	—	20	20	20	20	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	15.1	1.7	1.4	-5.8	3.9
純資産総額 (百万円)	423	882	2,683	4,393	4,140	5,999

(注) 当ファンドは、「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

5 投資環境

(債券市場)

当期、世界の債券市場では、期末にかけてトランプ米次期政権の政策期待をきっかけに米国国債利回りが大きく上昇したことなどを背景に、長期金利は全般的に上昇しました（価格は下落）。

米国の債券市場では、6月23日に実施された英国の欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票で離脱という予想外の結果などを背景に、米連邦準備理事会（FRB）の利上げ先送り観測が強まり、米国10年国債利回りは期首の1.6%台前半から7月上旬には1.3%台半ばまで低下（価格は上昇）しました。

しかし、英国のEU離脱が世界経済に与える影響は限定的であるとの見方が広がったことや堅調な米国経済指標を受けた利上げ期待の高まりなどから、利回りは7月半ば以降、反転上昇基調となり、11月8日の米大統領選前には1.8%～1.9%へと水準を上げました。米大統領選におけるトランプ氏の予想外の勝利を受けてリスク回避姿勢が強まったことから利回りは一旦低下する場面はあったものの、トランプ次期政権の減税や積極的な財政政策への期待が高まるにつれて大きく上昇しました。その後も11月末の石油輸出国機構（OPEC）総会で減産が合意されたこと、12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で追加利上げが実施されたことなどから米国10年国債利回りは上昇基調を維持し、期首の水準を大きく上回る2.5%台半ばで期末を迎えました。

欧州の債券市場では、欧州中央銀行（ECB）が金融緩和政策を継続するなか、ドイツ10年国債利回りはマイナス水準に低下しましたが、期末にかけては原油価格の上昇によるインフレ期待や米大統領選を受けた米国の長期金利上昇の影響を受けて、利回りは一時0.4%を超える水準まで上昇しました。

新興国の債券市場では、長期金利は期首から総じて低下基調が続いていたものの、米大統領選後はトランプ次期米大統領の掲げる保護主義的な政策が嫌気されて急上昇し、結局、期末には期首とほぼ同水準となりました。

(外国為替市場)

当期、外国為替市場では、米ドルの対円相場は期首の104円台から117円台へと大幅に上昇しました。

期首、英国のEU離脱決定を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことから円高が進行し、一時1米ドル100円を割り込みましたが、英国のEU離脱が世界経済に与える影響は限定的であるとの見方が広まったこともあり、米ドル円相場は7月には一旦1米ドル107円台を回復するなど値動きの荒い展開となりました。その後は米国の金融政策や米大統領選に対する不透明感から概ね100円～105円のレンジで方向感に欠ける展開が続きましたが、11月8日の米大統領選後はトランプ次期米大統領が掲げる政策による景気拡大への期待、日米金利差拡大の見通し、11月末のOPEC総会における減産合意などから米ドルは急反発し、対円相場は1米ドル117円台前半まで上昇して当期を終えました。

6 当該投資信託のポートフォリオ

(テンブルトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース)

「テンブルトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」は、運用の基本方針にもとづき、「テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス)

<国・地域配分>

－2016年11月末時点での主な配分は、メキシコ22.0%、韓国14.9%、ブラジル13.2%、インドネシア9.5%、マレーシア8.9%となりました。

<通貨別配分>

－2016年11月末時点での主な配分は、米ドル104.4%、メキシコペソ22.5%、マレーシアリンギ14.9%、ブラジルリアル13.2%、インドネシアルピア9.5%などを買建としました。一方で、ユーロ、円などを売建としました。

<信用格付別配分>

－2016年11月末時点での主な配分は、投資適格64.6%、非投資適格23.6%、その他11.7%としました。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定))

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行いました。

7 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

8 分配金

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第12期 2016年6月21日～2016年12月20日
当期分配金	10
(対基準価額比率)	0.090%
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,114

(注) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金 (税込み) に合致しない場合があります。

(注) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金 (税込み) の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

(テンプルトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース)

「テンプルトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」は、運用の基本方針にもとづき、「テンプルトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」および「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」へ投資を行います。「テンプルトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド：テンプルトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス)

ファンドではリターンに見合わない金利リスクを取ることなく、実質利回りがプラスとなるような投資機会を引き続き積極的に捉えています。また、経済のファンダメンタルズが堅調で確固とした財政、金融政策を遂行している国を選択して投資する予定です。足元数ヵ月間は、中期的なバリュエーションの観点から投資妙味のあるアジア諸国およびラテンアメリカ諸国の現地通貨建て債券のポジションを選択的にとっています。引き続き確信度の高いポジションを維持しつつ、2016年初や英国のEU離脱決定後のような値動きの荒い相場展開の中で投資機会を捉えてポジション調整を行っています。ファンドでは、デュレーション（金利変動に対する債券価格の感応度）を金利リスクに応じて適切な水準に調整しています。たとえば、米国国債に対するデュレーションをマイナスにする（米国の金利が上昇するとポートフォリオの価値が上昇するようにする）ことで、ポートフォリオ全体のデュレーションをゼロに近い水準まで短期化するといった対応をとっています。また、新興国市場の現地通貨建て債券のように相対的に利回り水準が高い債券への選別的な配分も行っています。通貨市場においては、どのような市場の局面であっても、買建および売建双方のポジションを状況に応じて柔軟にとることで収益を追求することが出来ます。

世界の債券、通貨市場には、ファンダメンタルズに比べて過小評価されている魅力的な投資機会が数多く見られます。ファンドでは、インフレ率が安定的に推移し健全な経済成長を維持している一方で、現地通貨が割安な水準にあると判断した国の通貨などに選択的に投資していく方針です。今後は、米国のインフレ圧力の高まりを受けて米国国債の利回りはさらに上昇するとみています。また、引き続きユーロおよび円の対米ドルでの下落と一部新興国通貨の上昇を見込んでいます。

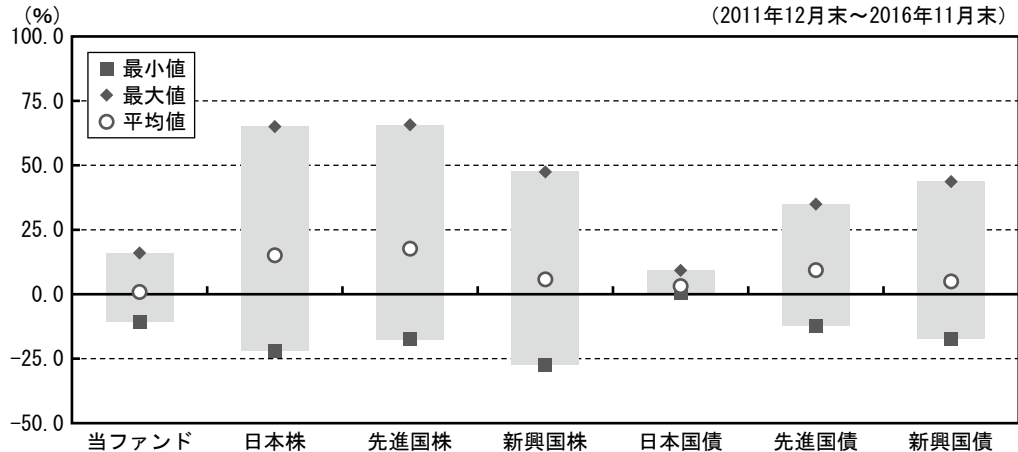
(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY-H1 ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じてわが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY-H1）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎年6月および12月の20日（休業日の場合は翌営業日））に、基準価額水準、市況動向等を勘案して収益分配金額を決定します。 分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	0.9	15.1	17.7	5.7	3.1	9.3	5.0
最大値	16.0	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	-10.8	-22.0	-17.5	-27.4	0.5	-12.3	-17.4

2011年12月から2016年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株 : 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株 : MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株 : MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債 : NOMURA-BPI 国債

先進国債 : シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債 : JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

当該投資信託のデータ

テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース

1 当該投資信託の組入資産の内容

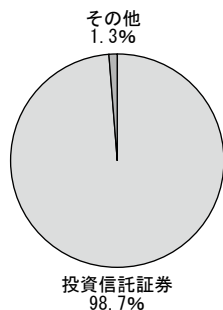
○組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

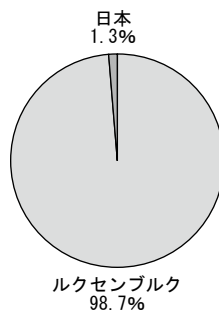
	第12期末
	2016年12月20日
フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ-テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-HI	98.7%
日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)	0.0%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

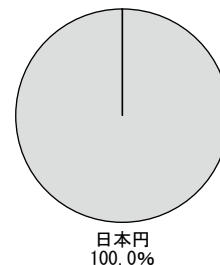
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

2 純資産等

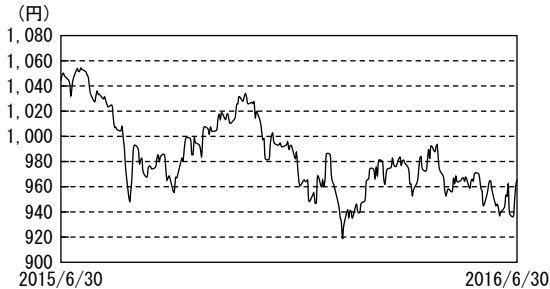
項目	第12期末
	2016年12月20日
純資産総額	5,999,113,743円
受益権総口数	5,427,699,296口
1万口当たり基準価額	11,053円

(注) 当期 (第12期) 中における追加設定元本額は171,645,084円、同解約元本額は774,039,467円です。

3 組入上位ファンドの概要

◆フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド (2015年7月1日～2016年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPY-H1の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2015年7月1日～2016年6月30日)

項目	比率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.28%
合計	0.83%

(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPY-H1の数値です。

(注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

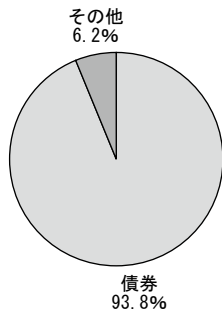
○上位10銘柄 (2016年6月30日現在)

銘柄名	通貨	比率
		%
Government of Mexico, senior note, M, 5.00%, 06/15/17	メキシコペソ	4.94
Government of Malaysia, senior note, 3.394%, 03/15/17	マレーシアリング	3.04
Korea Monetary Stabilization Bond, senior note, 2.07%, 12/02/16	韓国ウォン	2.21
Nota Do Tesouro Nacional, senior note, 10.00%, 01/01/17	ブラジルレアル	2.10
Mexico Treasury Bill, 0.00%, 10/13/16	メキシコペソ	2.07
Mexico Treasury Bill, 0.00%, 08/18/16	メキシコペソ	1.95
Korea Monetary Stabilization Bond, senior note, 1.45%, 06/02/18	韓国ウォン	1.93
Mexico Treasury Bill, 0.00%, 12/08/16	メキシコペソ	1.83
Government of Indonesia, senior bond, FR56, 8.375%, 09/15/26	インドネシア ルピア	1.79
Letra Tesouro Nacional, Strip, 07/01/19	ブラジルレアル	1.78
組入銘柄数	189銘柄	

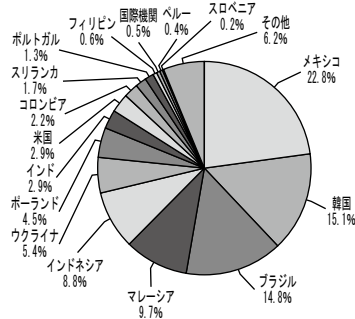
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

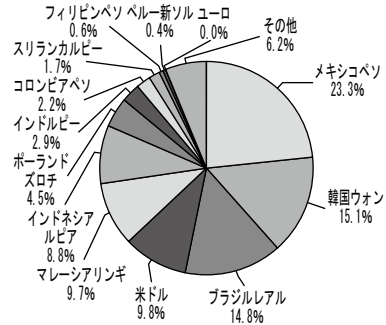
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

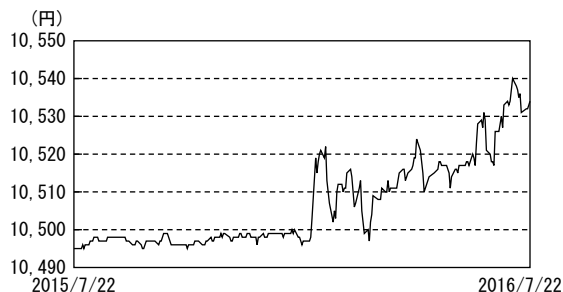


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2016年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◆日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2015年7月23日～2016年7月22日）

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

（2015年7月23日～2016年7月22日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円	%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（期中の日数÷年間日数） ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
（投信会社）	15	0.140	
（販売会社）	(11)	(0.108)	
（受託会社）	(1)	(0.011)	
(b) その他費用	(2)	(0.022)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用 信託事務の処理等に要するその他諸費用
（監査費用）	0	0.003	
（その他）	(0)	(0.003)	
合計	(0)	(0.000)	
合計	15	0.143	
期中の平均基準価額は、10,505円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

（2016年7月22日現在）

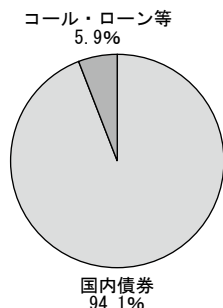
○組入上位10銘柄

（組入銘柄数：23銘柄）

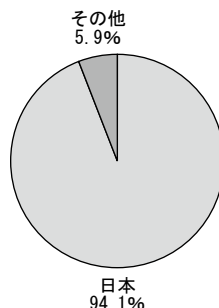
	銘柄	種類	国	業種／種別	比率
1	第6回りそな銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
2	第23回三井住友銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
3	第28回三菱東京UFJ銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
4	第14回みずほ銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
5	第316回北海道電力	債券	日本	社債	4.2%
6	第138回オリックス	債券	日本	社債	4.1%
7	第43回野村ホールディングス	債券	日本	社債	4.1%
8	第9回ゴールドマン・サックス・グループ・インク	債券	日本	社債	4.1%
9	第284回信金中金債	債券	日本	特殊債	4.1%
10	第67回アコム	債券	日本	社債	4.1%

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

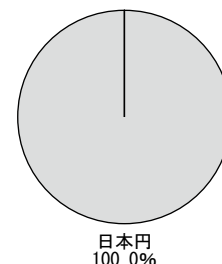
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

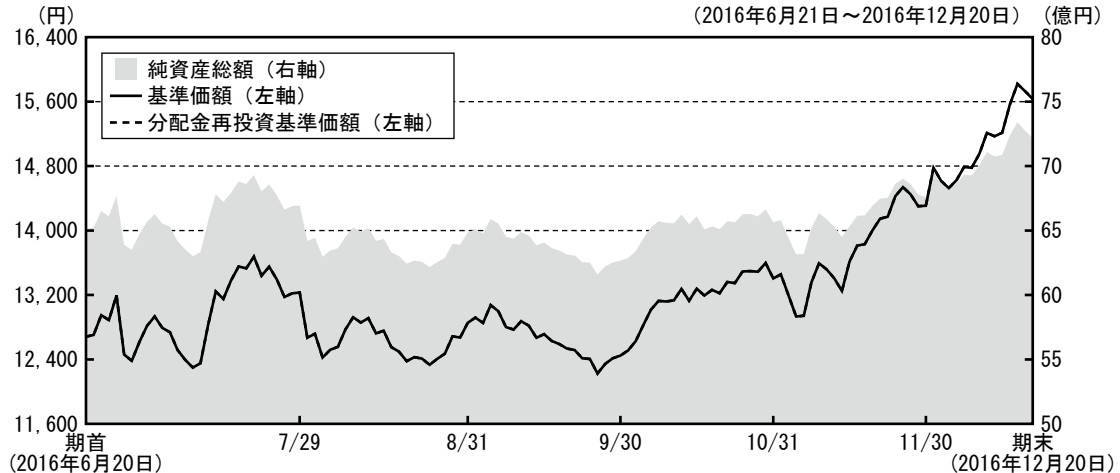


- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース

運用経過の説明

1 基準価額等の推移



第12期首：12,682円
 第12期末：15,632円 (既払分配金10円)
 騰落率：23.3% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

2 基準価額の主な変動理由

基準価額の値上がりは、主要投資対象である「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国証券「Class I (Mdis) JPY」(以下、JPYクラスといいます。)が値上がりしたことによるものです。この背景としては、主に以下の要因が挙げられます。

上昇要因：

- ・為替相場が円安・ドル高となったこと
- ・実質的に対米ドルで売り建てしている通貨(円、ユーロなど)が米ドルに対し下落したこと
- ・新興国通貨の一部(主にブラジルレアル)が米ドルに対し上昇したこと
- ・世界各国の国債、政府機関債等からの利息収入

下落要因：

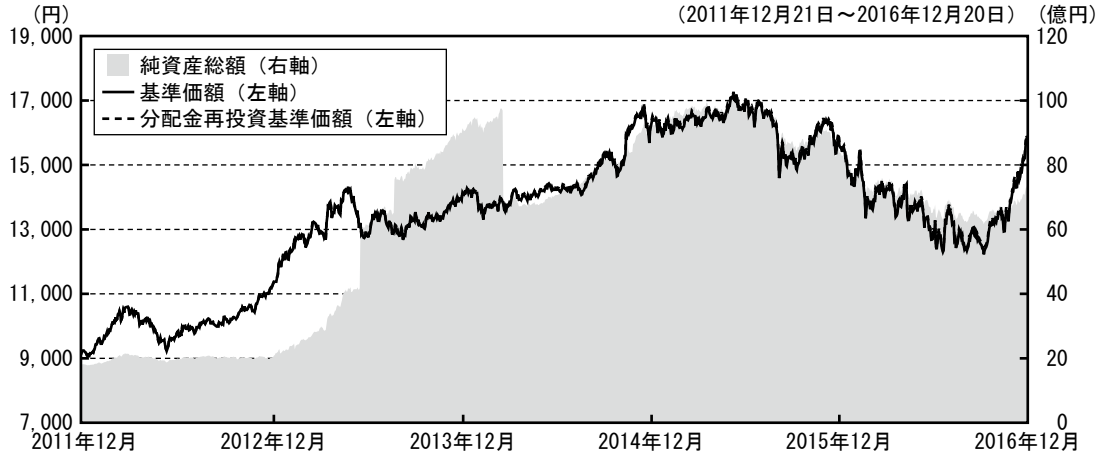
- ・新興国通貨の一部(メキシコペソ、マレーシアリングなど)が米ドルに対し下落したこと
- ・新興国債券の一部が値下がりしたこと

3 1万口当たり費用明細

項目	当期 2016年6月21日～2016年12月20日		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 70	% 0.528	(a) 信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率、期中の平均基準価額は13,177円です。 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(14)	(0.108)	
(販売会社)	(54)	(0.406)	
(受託会社)	(2)	(0.014)	
(b) その他費用	0	0.004	(b) その他費用＝ $\frac{\text{〔期中のその他費用〕}}{\text{〔期中の平均受益権口数〕}}$ その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ その他は、金銭信託預入に係る手数料等
(監査費用)	(0)	(0.004)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合計	70	0.532	

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

4 最近5年間の基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2011年12月20日 決算日	2012年12月20日 決算日	2013年12月20日 決算日	2014年12月22日 決算日	2015年12月21日 決算日	2016年12月20日 決算日
基準価額 (円)	9,119	11,362	14,104	16,315	15,602	15,632
期間分配金合計(税込み) (円)	—	20	20	20	20	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	24.8	24.3	15.8	-4.3	0.3
純資産総額 (百万円)	1,786	2,086	9,090	9,138	8,395	7,215

(注) 当ファンドは、「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

5 投資環境

(債券市場)

当期、世界の債券市場では、期末にかけてトランプ米次期政権の政策期待をきっかけに米国国債利回りが大きく上昇したことなどを背景に、長期金利は全般的に上昇しました（価格は下落）。

米国の債券市場では、6月23日に実施された英国の欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票で離脱という予想外の結果などを背景に、米連邦準備理事会（FRB）の利上げ先送り観測が強まり、米国10年国債利回りは期首の1.6%台前半から7月上旬には1.3%台半ばまで低下（価格は上昇）しました。

しかし、英国のEU離脱が世界経済に与える影響は限定的であるとの見方が広がったことや堅調な米国経済指標を受けた利上げ期待の高まりなどから、利回りは7月半ば以降、反転上昇基調となり、11月8日の米大統領選前には1.8%～1.9%へと水準を上げました。米大統領選におけるトランプ氏の予想外の勝利を受けてリスク回避姿勢が強まったことから利回りは一旦低下する場面はあったものの、トランプ次期政権の減税や積極的な財政政策への期待が高まるにつれて大きく上昇しました。その後も11月末の石油輸出国機構（OPEC）総会で減産が合意されたこと、12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で追加利上げが実施されたことなどから米国10年国債利回りは上昇基調を維持し、期首の水準を大きく上回る2.5%台半ばで期末を迎えました。

欧州の債券市場では、欧州中央銀行（ECB）が金融緩和政策を継続するなか、ドイツ10年国債利回りはマイナス水準に低下しましたが、期末にかけては原油価格の上昇によるインフレ期待や米大統領選を受けた米国の長期金利上昇の影響を受けて、利回りは一時0.4%を超える水準まで上昇しました。

新興国の債券市場では、長期金利は期首から総じて低下基調が続いていたものの、米大統領選後はトランプ次期米大統領の掲げる保護主義的な政策が嫌気されて急上昇し、結局、期末には期首とほぼ同水準となりました。

(外国為替市場)

当期、外国為替市場では、米ドルの対円相場は期首の104円台から117円台へと大幅に上昇しました。

期首、英国のEU離脱決定を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことから円高が進行し、一時1米ドル100円を割り込みましたが、英国のEU離脱が世界経済に与える影響は限定的であるとの見方が広まったこともあり、米ドル円相場は7月には一旦1米ドル107円台を回復するなど値動きの荒い展開となりました。その後は米国の金融政策や米大統領選に対する不透明感から概ね100円～105円のレンジで方向感に欠ける展開が続きましたが、11月8日の米大統領選後はトランプ次期米大統領が掲げる政策による景気拡大への期待、日米金利差拡大の見通し、11月末のOPEC総会における減産合意などから米ドルは急反発し、対円相場は1米ドル117円台前半まで上昇して当期を終えました。

6 当該投資信託のポートフォリオ

(テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース」は、運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

<国・地域配分>

－2016年11月末時点での主な配分は、メキシコ22.0%、韓国14.9%、ブラジル13.2%、インドネシア9.5%、マレーシア8.9%となりました。

<通貨別配分>

－2016年11月末時点での主な配分は、米ドル104.4%、メキシコペソ22.5%、マレーシアリング14.9%、ブラジルリアル13.2%、インドネシアルピア9.5%などを買建としました。一方で、ユーロ、円などを売建としました。

<信用格付別配分>

－2016年11月末時点での主な配分は、投資適格64.6%、非投資適格23.6%、その他11.7%としました。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行いました。

7 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

8 分配金

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

第12期 2016年6月21日～2016年12月20日	
当期分配金 (対基準価額比率)	10 0.064%
当期の収益	10
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	5,771

(注) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

(テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース」は、運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド：テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

ファンドではリターンに見合わない金利リスクを取ることなく、実質利回りがプラスとなるような投資機会を引き続き積極的に捉えていきます。また、経済のファンダメンタルズが堅調で確固とした財政、金融政策を遂行している国を選択して投資する予定です。足元数ヶ月間は、中期的なバリュエーションの観点から投資妙味のあるアジア諸国およびラテンアメリカ諸国の現地通貨建て債券のポジションを選択的にとっています。引き続き確信度の高いポジションを維持しつつ、2016年初や英国のEU離脱決定後のような値動きの荒い相場展開の中で投資機会を捉えてポジション調整を行っています。ファンドでは、デュレーション(金利変動に対する債券価格の感応度)を金利リスクに応じて適切な水準に調整しています。たとえば、米国国債に対するデュレーションをマイナスにする(米国の金利が上昇するとポートフォリオの価値が上昇するようにする)ことで、ポートフォリオ全体のデュレーションをゼロに近い水準まで短期化するといった対応をとっています。また、新興国市場の現地通貨建て債券のように相対的に利回り水準が高い債券への選別的な配分も行っています。通貨市場においては、どのような市場の局面であっても、買建および売建双方のポジションを状況に応じて柔軟にとることで収益を追求することが出来ます。

世界の債券、通貨市場には、ファンダメンタルズに比べて過小評価されている魅力的な投資機会が数多く見られます。ファンドでは、インフレ率が安定的に推移し健全な経済成長を維持している一方で、現地通貨が割安水準にあると判断した国の通貨などに選択的に投資していく方針です。今後は、米国のインフレ圧力の高まりを受けて米国国債の利回りはさらに上昇するとみています。また、引き続きユーロおよび円の対米ドルでの下落と一部新興国通貨の上昇を見込んでいます。

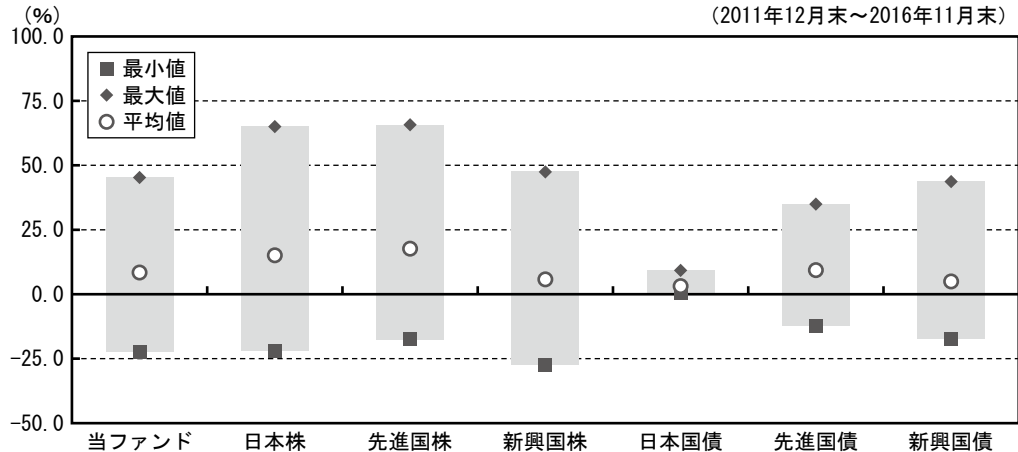
(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定))

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じて、わが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズーテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎年6月および12月の20日（休業日の場合は翌営業日））に、基準価額水準、市況動向等を勘案して収益分配金額を決定します。 分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	8.4	15.1	17.7	5.7	3.1	9.3	5.0
最大値	45.3	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	-22.4	-22.0	-17.5	-27.4	0.5	-12.3	-17.4

2011年12月から2016年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株 : 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株 : MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株 : MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債 : NOMURA-BPI 国債

先進国債 : シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債 : JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

当該投資信託のデータ

テンプルトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース

1 当該投資信託の組入資産の内容

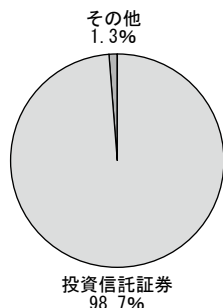
○組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

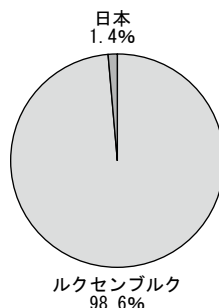
	第12期末
	2016年12月20日
フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ-テンプルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	98.6%
日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)	0.2%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

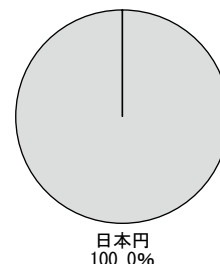
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

2 純資産等

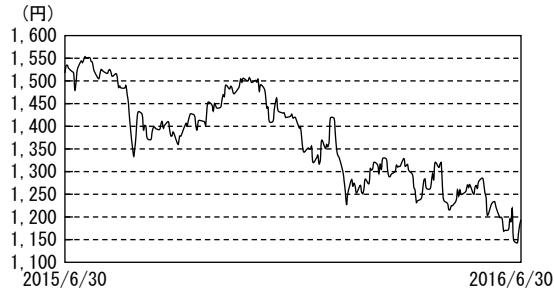
項目	第12期末
	2016年12月20日
純資産総額	7,215,668,628円
受益権総口数	4,616,015,435口
1万口当たり基準価額	15,632円

(注) 当期 (第12期) 中における追加設定元本額は122,085,592円、同解約元本額は638,436,995円です。

3 組入上位ファンドの概要

◆フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド (2015年7月1日～2016年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPYの分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2015年7月1日～2016年6月30日)

項目	比率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.30%
合計	0.85%

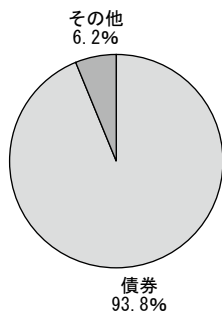
(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPYの数値です。
 (注) 1万円当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位10銘柄 (2016年6月30日現在)

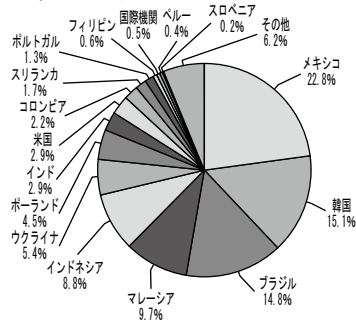
銘柄名	通貨	比率
		%
Government of Mexico, senior note, M, 5.00%, 06/15/17	メキシコペソ	4.94
Government of Malaysia, senior note, 3.394%, 03/15/17	マレーシアリング	3.04
Korea Monetary Stabilization Bond, senior note, 2.07%, 12/02/16	韓国ウォン	2.21
Nota Do Tesouro Nacional, senior note, 10.00%, 01/01/17	ブラジルレアル	2.10
Mexico Treasury Bill, 0.00%, 10/13/16	メキシコペソ	2.07
Mexico Treasury Bill, 0.00%, 08/18/16	メキシコペソ	1.95
Korea Monetary Stabilization Bond, senior note, 1.45%, 06/02/18	韓国ウォン	1.93
Mexico Treasury Bill, 0.00%, 12/08/16	メキシコペソ	1.83
Government of Indonesia, senior bond, FR56, 8.375%, 09/15/26	インドネシア ルピア	1.79
Letra Tesouro Nacional, Strip, 07/01/19	ブラジルレアル	1.78
組入銘柄数	189銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
 (注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

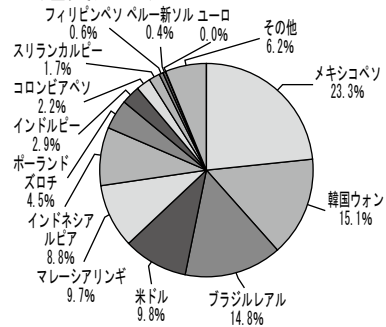
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

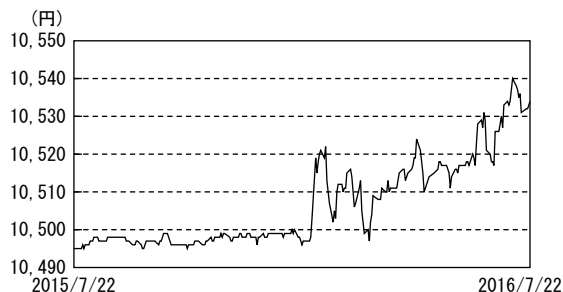


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2016年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◆日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2015年7月23日～2016年7月22日）

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

（2015年7月23日～2016年7月22日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 15	% 0.140	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（期中の日数÷年間日数）
（投信会社）	(11)	(0.108)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(1)	(0.011)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.022)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（その他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	15	0.143	
期中の平均基準価額は、10,505円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

（2016年7月22日現在）

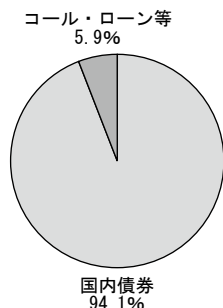
○組入上位10銘柄

（組入銘柄数：23銘柄）

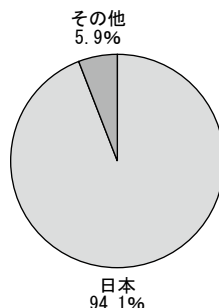
	銘柄	種類	国	業種／種別	比率
1	第6回りそな銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
2	第23回三井住友銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
3	第28回三菱東京UFJ銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
4	第14回みずほ銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
5	第316回北海道電力	債券	日本	社債	4.2%
6	第138回オリックス	債券	日本	社債	4.1%
7	第43回野村ホールディングス	債券	日本	社債	4.1%
8	第9回ゴールドマン・サックス・グループ・インク	債券	日本	社債	4.1%
9	第284回信金中金債	債券	日本	特殊債	4.1%
10	第67回アコム	債券	日本	社債	4.1%

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

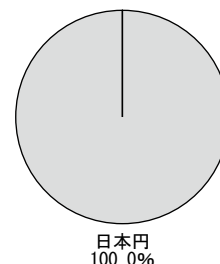
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

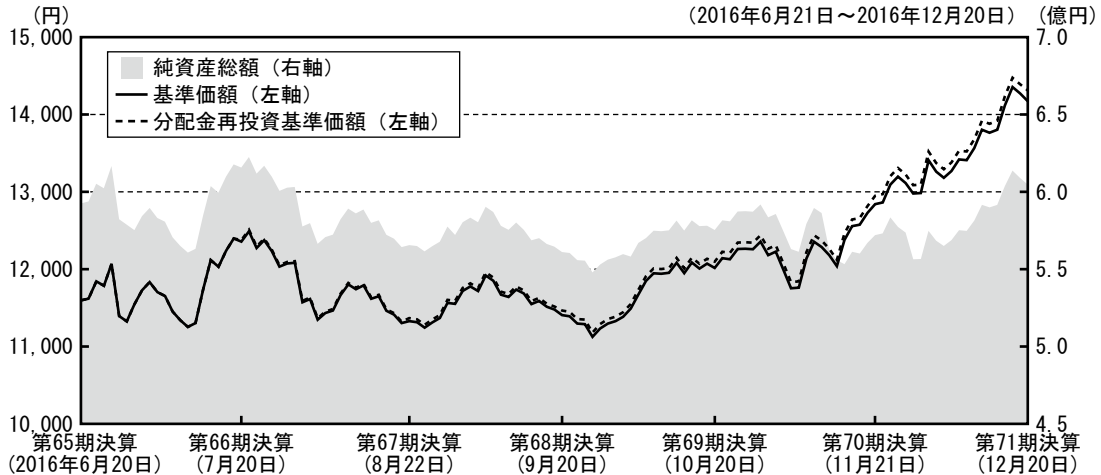


- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース

運用経過の説明

1 基準価額等の推移



第66期首：11,596円

第71期末：14,172円 (既払分配金120円)

騰落率：23.4% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

2 基準価額の主な変動理由

基準価額の値上がりは、主要投資対象である「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ・テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国証券「Class I (Mdis) JPY」(以下、JPYクラスといいます。)が値上がりしたことによるものです。この背景としては、主に以下の要因が挙げられます。

上昇要因：

- ・ 為替相場が円安・ドル高となったこと
- ・ 実質的に対米ドルで売り建てしている通貨(円、ユーロなど)が米ドルに対し下落したこと
- ・ 新興国通貨の一部(主にブラジルリアル)が米ドルに対し上昇したこと
- ・ 世界各国の国債、政府機関債等からの利息収入

下落要因：

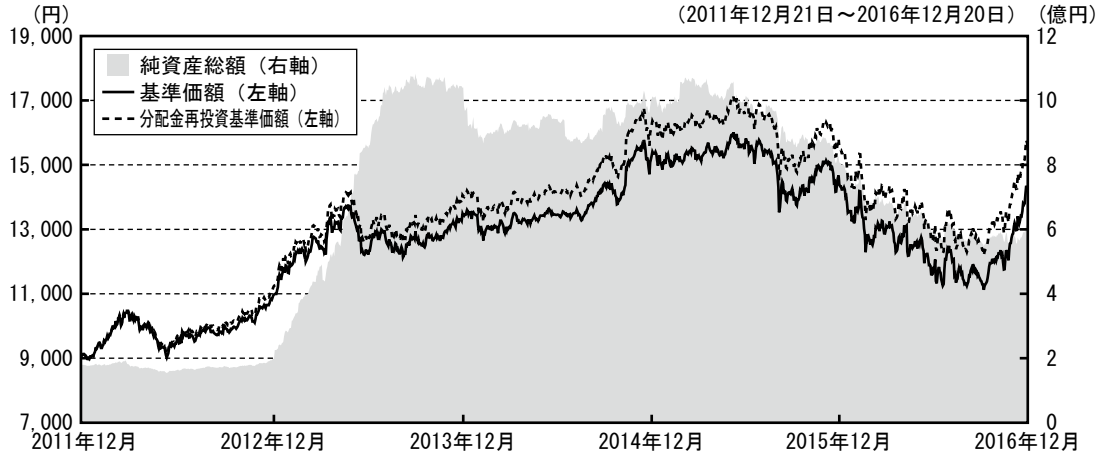
- ・ 新興国通貨の一部(メキシコペソ、マレーシアリングなど)が米ドルに対し下落したこと
- ・ 新興国債券の一部が値下がりしたこと

3 1万口当たり費用明細

項目	当作成期 2016年6月21日～2016年12月20日		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 63	% 0.528	(a) 信託報酬＝〔作成期間の平均基準価額〕×信託報酬率、作成期間の平均基準価額は12,003円です。 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(13)	(0.108)	
(販売会社)	(49)	(0.406)	
(受託会社)	(2)	(0.014)	
(b) その他費用	0	0.004	(b) その他費用＝ $\frac{\text{〔作成期間のその他費用〕}}{\text{〔作成期間の平均受益権口数〕}}$ その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ その他は、金銭信託預入に係る手数料等
(監査費用)	(0)	(0.004)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合計	63	0.532	

- (注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

4 最近5年間の基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入金額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2011年12月20日 決算日	2012年12月20日 決算日	2013年12月20日 決算日	2014年12月22日 決算日	2015年12月21日 決算日	2016年12月20日 決算日
基準価額 (円)	9,011	10,979	13,443	15,289	14,386	14,172
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	240	240	240	240	240
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	24.8	24.8	15.7	-4.4	0.4
純資産総額 (百万円)	180	199	1,040	1,004	808	604

(注) 当ファンドは、「フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ-テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」および「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。

ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

5 投資環境

(債券市場)

当作成期、世界の債券市場では、期末にかけてトランプ米次期政権の政策期待をきっかけに米国国債利回りが大きく上昇したことなどを背景に、長期金利は全般的に上昇しました（価格は下落）。

米国の債券市場では、6月23日に実施された英国の欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票で離脱という予想外の結果などを背景に、米連邦準備理事会（FRB）の利上げ先送り観測が強まり、米国10年国債利回りは期首の1.6%台前半から7月上旬には1.3%台半ばまで低下（価格は上昇）しました。

しかし、英国のEU離脱が世界経済に与える影響は限定的であるとの見方が広がったことや堅調な米国経済指標を受けた利上げ期待の高まりなどから、利回りは7月半ば以降、反転上昇基調となり、11月8日の米大統領選前には1.8%～1.9%へと水準を上げました。米大統領選におけるトランプ氏の予想外の勝利を受けてリスク回避姿勢が強まったことから利回りは一旦低下する場面はあったものの、トランプ次期政権の減税や積極的な財政政策への期待が高まるにつれて大きく上昇しました。その後も11月末の石油輸出国機構（OPEC）総会で減産が合意されたこと、12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で追加利上げが実施されたことなどから米国10年国債利回りは上昇基調を維持し、期首の水準を大きく上回る2.5%台半ばで期末を迎えました。

欧州の債券市場では、欧州中央銀行（ECB）が金融緩和政策を継続するなか、ドイツ10年国債利回りはマイナス水準に低下しましたが、期末にかけては原油価格の上昇によるインフレ期待や米大統領選を受けた米国の長期金利上昇の影響を受けて、利回りは一時0.4%を超える水準まで上昇しました。

新興国の債券市場では、長期金利は期首から総じて低下基調が続いていたものの、米大統領選後はトランプ次期米大統領の掲げる保護主義的な政策が嫌気されて急上昇し、結局、期末には期首とほぼ同水準となりました。

(外国為替市場)

当作成期、外国為替市場では、米ドルの対円相場は期首の104円台から117円台へと大幅に上昇しました。

期首、英国のEU離脱決定を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことから円高が進行し、一時1米ドル100円を割り込みましたが、英国のEU離脱が世界経済に与える影響は限定的であるとの見方が広まったこともあり、米ドル円相場は7月には一旦1米ドル107円台を回復するなど値動きの荒い展開となりました。その後は米国の金融政策や米大統領選に対する不透明感から概ね100円～105円のレンジで方向感に欠ける展開が続きましたが、11月8日の米大統領選後はトランプ次期米大統領が掲げる政策による景気拡大への期待、日米金利差拡大の見通し、11月末のOPEC総会における減産合意などから米ドルは急反発し、対円相場は1米ドル117円台前半まで上昇して当作成期を終えました。

6 当該投資信託のポートフォリオ

(テンブルトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース)

「テンブルトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」は、運用の基本方針にもとづき、「テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

<国・地域配分>

－2016年11月末時点での主な配分は、メキシコ22.0%、韓国14.9%、ブラジル13.2%、インドネシア9.5%、マレーシア8.9%となりました。

<通貨別配分>

－2016年11月末時点での主な配分は、米ドル104.4%、メキシコペソ22.5%、マレーシアリング14.9%、ブラジルレアル13.2%、インドネシアルピア9.5%などを買建としました。一方で、ユーロ、円などを売建としました。

<信用格付別配分>

－2016年11月末時点での主な配分は、投資適格64.6%、非投資適格23.6%、その他11.7%としました。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定))

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行いました。

7 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

8 分配金

当作成期の収益分配は次表の通りです。第66期から第70期につきましては、配当等収益を中心に分配を行いました。第71期につきましては、配当等収益に加え、基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定いたしました。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

	第66期 2016年6月21日～ 2016年7月20日	第67期 2016年7月21日～ 2016年8月22日	第68期 2016年8月23日～ 2016年9月20日	第69期 2016年9月21日～ 2016年10月20日	第70期 2016年10月21日～ 2016年11月21日	第71期 2016年11月22日～ 2016年12月20日
当期分配金 (対基準価額比率)	20 0.162%	20 0.176%	20 0.175%	20 0.166%	20 0.156%	20 0.141%
当期の収益	20	20	20	20	20	20
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	6,317	6,341	6,375	6,404	6,440	6,481

(注) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

(テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」は、運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」および「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」へ投資を行います。「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド：テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

ファンドではリターンに見合わない金利リスクを取ることなく、実質利回りがプラスとなるような投資機会を引き続き積極的に捉えていきます。また、経済のファンダメンタルズが堅調で確固とした財政、金融政策を遂行している国を選択して投資する予定です。足元数ヵ月間は、中期的なバリュエーションの観点から投資妙味のあるアジア諸国およびラテンアメリカ諸国の現地通貨建て債券のポジションを選択的にとっています。引き続き確信度の高いポジションを維持しつつ、2016年初や英国のEU離脱決定後のような値動きの荒い相場展開の中で投資機会を捉えてポジション調整を行っています。ファンドでは、デュレーション（金利変動に対する債券価格の感応度）を金利リスクに応じて適切な水準に調整しています。たとえば、米国国債に対するデュレーションをマイナスにする（米国の金利が上昇するとポートフォリオの価値が上昇するようにする）ことで、ポートフォリオ全体のデュレーションをゼロに近い水準まで短期化するといった対応をとっています。また、新興国市場の現地通貨建て債券のように相対的に利回り水準が高い債券への選別的な配分も行っています。通貨市場においては、どのような市場の局面であっても、買建および売建双方のポジションを状況に応じて柔軟にとることで収益を追求することが出来ます。

世界の債券、通貨市場には、ファンダメンタルズに比べて過小評価されている魅力的な投資機会が数多く見られます。ファンドでは、インフレ率が安定的に推移し健全な経済成長を維持している一方で、現地通貨が割安な水準にあると判断した国の通貨などに選択的に投資していく方針です。今後は、米国のインフレ圧力の高まりを受けて米国国債の利回りはさらに上昇するとみています。また、引き続きユーロおよび円の対米ドルでの下落と一部新興国通貨の上昇を見込んでいます。

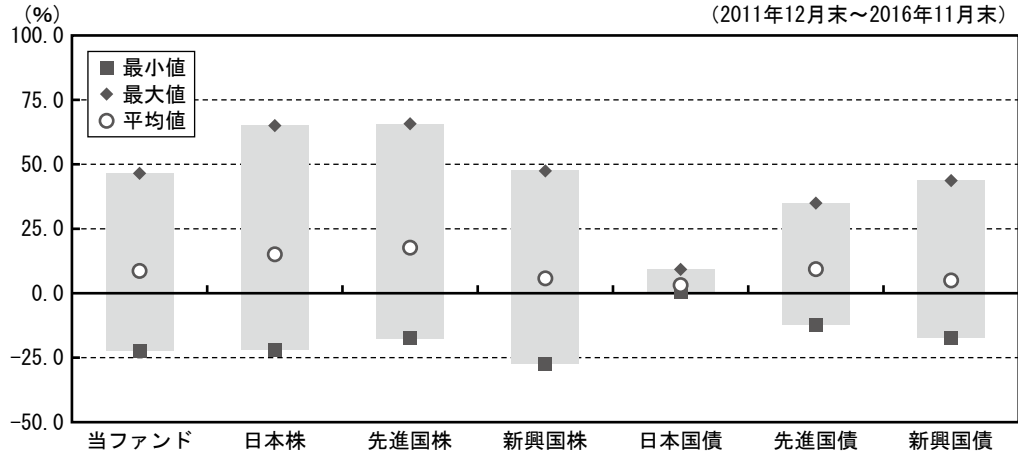
(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じてわが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎月20日（休業日の場合は翌営業日））に、基準価額水準、市況動向等を勘案して収益分配金額を決定します。 分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 なお、6月および12月以外の月の決算時の分配については、原則として配当等収益を中心とするものとします。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	8.6	15.1	17.7	5.7	3.1	9.3	5.0
最大値	46.5	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	-22.3	-22.0	-17.5	-27.4	0.5	-12.3	-17.4

2011年12月から2016年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株 : 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株 : MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株 : MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債 : NOMURA-BPI 国債

先進国債 : シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債 : JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

当該投資信託のデータ

テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース

1 当該投資信託の組入資産の内容

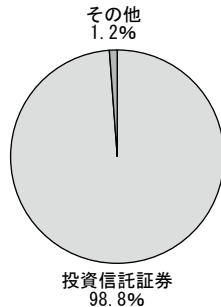
○組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

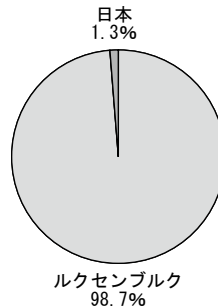
	第71期末
	2016年12月20日
フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ-テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	98.7%
日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)	0.1%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

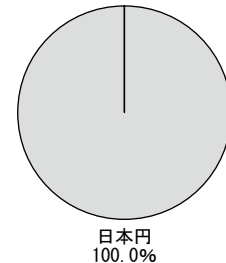
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

2 純資産等

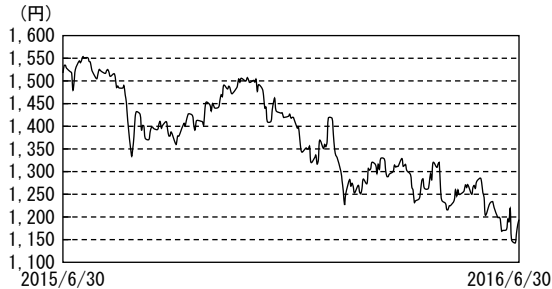
項目	第66期末	第67期末	第68期末	第69期末	第70期末	第71期末
	2016年7月20日	2016年8月22日	2016年9月20日	2016年10月20日	2016年11月21日	2016年12月20日
純資産総額	615,690,165円	565,523,581円	561,050,445円	575,304,145円	571,976,157円	604,670,522円
受益権総口数	498,280,706口	499,208,869口	491,880,762口	478,840,840口	445,452,139口	426,672,858口
1万口当たり基準価額	12,356円	11,328円	11,406円	12,015円	12,840円	14,172円

(注) 当作成期間 (第66期～第71期) 中における追加設定元本額は2,423,804円、同解約元本額は86,663,318円です。

3 組入上位ファンドの概要

◆フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド (2015年7月1日～2016年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPYの分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2015年7月1日～2016年6月30日)

項目	比率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.30%
合計	0.85%

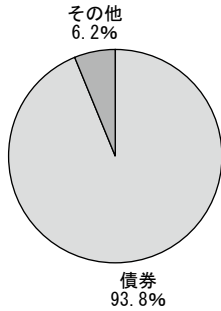
(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPYの数値です。
 (注) 1万円当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位10銘柄 (2016年6月30日現在)

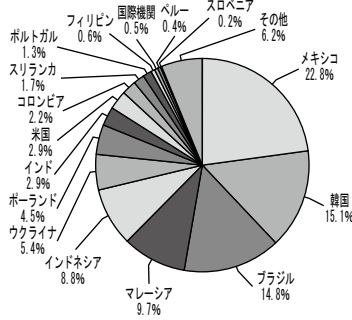
銘柄名	通貨	比率
		%
Government of Mexico, senior note, M, 5.00%, 06/15/17	メキシコペソ	4.94
Government of Malaysia, senior note, 3.394%, 03/15/17	マレーシアリング	3.04
Korea Monetary Stabilization Bond, senior note, 2.07%, 12/02/16	韓国ウォン	2.21
Nota Do Tesouro Nacional, senior note, 10.00%, 01/01/17	ブラジルレアル	2.10
Mexico Treasury Bill, 0.00%, 10/13/16	メキシコペソ	2.07
Mexico Treasury Bill, 0.00%, 08/18/16	メキシコペソ	1.95
Korea Monetary Stabilization Bond, senior note, 1.45%, 06/02/18	韓国ウォン	1.93
Mexico Treasury Bill, 0.00%, 12/08/16	メキシコペソ	1.83
Government of Indonesia, senior bond, FR56, 8.375%, 09/15/26	インドネシア ルピア	1.79
Letra Tesouro Nacional, Strip, 07/01/19	ブラジルレアル	1.78
組入銘柄数	189銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
 (注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

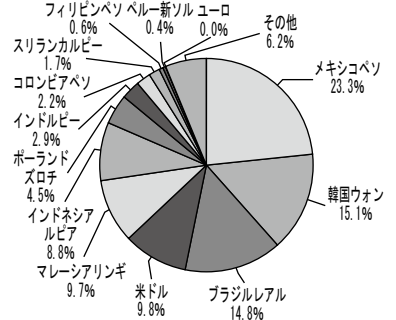
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

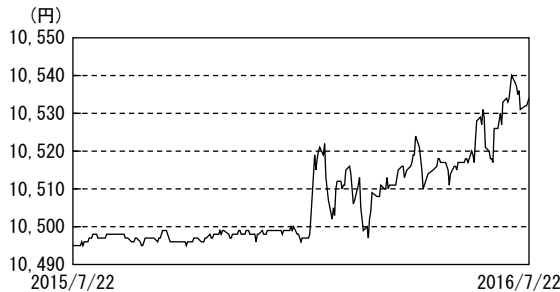


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2016年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◆日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2015年7月23日～2016年7月22日）

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

（2015年7月23日～2016年7月22日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 15	% 0.140	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（期中の日数÷年間日数）
（投信会社）	(11)	(0.108)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(1)	(0.011)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.022)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（その他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	15	0.143	
期中の平均基準価額は、10,505円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

（2016年7月22日現在）

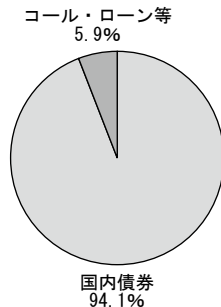
○組入上位10銘柄

（組入銘柄数：23銘柄）

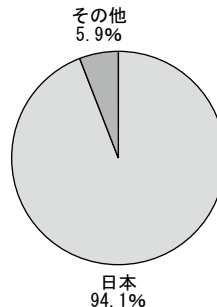
	銘柄	種類	国	業種／種別	比率
1	第6回りそな銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
2	第23回三井住友銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
3	第28回三菱東京UFJ銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
4	第14回みずほ銀行（劣後特約付）	債券	日本	社債	4.3%
5	第316回北海道電力	債券	日本	社債	4.2%
6	第138回オリックス	債券	日本	社債	4.1%
7	第43回野村ホールディングス	債券	日本	社債	4.1%
8	第9回ゴールドマン・サックス・グループ・インク	債券	日本	社債	4.1%
9	第284回信金中金債	債券	日本	特殊債	4.1%
10	第67回アコム	債券	日本	社債	4.1%

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

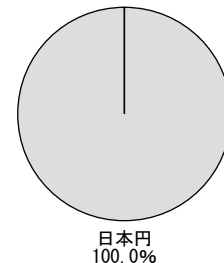
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

<代表的な資産クラスの指数の著作権等について>

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）の商標又は標章に関するすべての権利は株東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、株東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、株東京証券取引所は、本件商品の発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）、MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI コクサイ・インデックスおよびMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権およびその他一切の権利は野村証券株式会社に帰属しています。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関するすべての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、J.P. Morgan Securities LLCが公表しているインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属しています。



FRANKLIN TEMPLETON INVESTMENTS

フランクリン テンプルトン インベストメンツは、創業以来
ベンジャミン・フランクリンの肖像画をロゴマークとしております。
創業者ルーパート・H・ジョンソン Sr. は、
“With money and financial planning, prudence comes first.”
(お金を増やそうとするときに一番大切なのは、用心深さである。)
というベンジャミン・フランクリンのビジネス哲学に深く感銘し、
アメリカ建国の父でもあり、偉大な科学者、
そして優れた投資家でもあった彼の名を社名に冠しました。
ベンジャミン・フランクリンの肖像画を用いたロゴマークは、
ご投資家の皆様にとって、
フランクリン テンプルトン インベストメンツの資産運用サービスに対する
信頼と安心の象徴となっております。